

MACF 礼拝説教要旨

2022年1月9日

「癒しと神の国の福音」

ルカによる福音書 4章 31節-44節

4:31 イエスはガリラヤの町カファルナウムに下って、安息日には人々を教えておられた。

4:32 人々はその教えに非常に驚いた。その言葉には権威があったからである。

4:33 ところが会堂に、汚れた悪霊に取りつかれた男がいて、大声で叫んだ。

4:34 「ああ、ナザレのイエス、かまわないでくれ。我々を滅ぼしに来たのか。正体は分かっている。神の聖者だ。」

4:35 イエスが、「黙れ。この人から出て行け」とお叱りになると、悪霊はその男を人々の中に投げ倒し、何の傷も負わずに出て行った。

4:36 人々は皆驚いて、互いに言った。「この言葉はいったい何だろう。権威と力とをもって汚れた霊に命じると、出て行くとは。」

4:37 こうして、イエスのうわさは、辺り一帯に広まった。

4:38 イエスは会堂を立ち去り、シモンの家にお入りになった。シモンのしゅうとめが高い熱に苦しんでいたので、

人々は彼女のことをイエスに頼んだ。

4:39 イエスが枕もとに立って熱を叱りつけられると、熱は去り、彼女はすぐに起き上がって一同をもてなした。

4:40 日が暮れると、いろいろな病気で苦しむ者を抱えている人が皆、病人たちをイエスのもとに連れて来た。

イエスはその一人一人に手を置いていやされた。

4:41 悪霊もわめき立て、「お前は神の子だ」と言いながら、多くの人々から出て行った。イエスは悪霊を戒めて、

ものを言うことをお許しにならなかった。悪霊は、イエスをメシアだと知っていたからである。

4:42 朝になると、イエスは人里離れた所へ出て行かれた。群衆はイエスを捜し回ってそのそばまで来ると、

自分たちから離れて行かないようにと、しきりに引き止めた。

4:43 しかし、イエスは言われた。「ほかの町にも神の国の福音を告げ知らせなければならない。わたしはそのために遣わされたのだ。」

4:44 そして、ユダヤの諸会堂に行き行って宣教された。

イエス様の癒しの特徴的に奇跡が描かれています。

「言葉による勝利としての癒し」と言ったら良いでしょうか。

最初に会堂で悪霊に憑かれていた人を権威ある言葉で解放します。

言葉の持つ力、威厳、迫力には私たちの間でも経験することがありますが
イエス様の言葉、命令には「悪霊も従わざるを得ない」ほどの力がありました。

同時に、病を癒す言葉でもありました。

ペトロのしゅうとめが高熱で臥せっているところにイエス様が出向き、熱を叱りつけたとあります。

これらの記録はイエス様の救い主としての「力」「権威」の言葉の記録です。

イエス様の言葉には「創り出し」「清め」「癒し」「解放し」「追い出し」「癒す」力があります。

そしてまた、同時にその言葉で解放された人を「行動に移させる力を引き出す言葉」でもあります。

ペトロのしゅうとめが、癒されると、起き上がり、そこにいた人たちの接待を始めていることから明らか
です。

人は、イエス様の言葉や聖書の言葉で「解放」を味わうと、不思議なことにそれを自分だけのものにして
おくことが難しく、他者のことを考えるようになってきます。

そこには、イエス様の言葉が「敵対しているもの」には極端に厳しいですが、その人に向かっては優しい
表情や言葉が向けられているということがあると思います。

対象となった悪霊、熱に対しては厳しかった言葉も、当事者となる病人には「癒しの言葉」として耳に入
っているのです。ですから怯えることなく、感謝し他者のことを心にかけてくれる余裕が生まれているよ
うです。

さらに読んでいくとイエス様は病んでいる人たちに触れることで癒しを実行しています。

「いわゆる手当」です。

4:40 日が暮れると、いろいろな病気で苦しむ者を抱えている人が皆、病人たちをイエスのもとに連れて
来た。イエスはその一人一人に手を置いていやされた。

優しい言葉と手を当てること、は現代医療や看護の現場でも基本になっている姿勢だと思いますが、イ
エス様はすでにそれを実行しておられます。

現代的な手当の説明はこんな感じです。

ネットに掲載されていた医療業界のページからの引用です。

「なぜ手で肌や体に触れると痛みが和らいだり、心が穏やかになったりするのでしょうか。

その理由の一つとして挙げられるのが「絆ホルモン」「幸せホルモン」と呼ばれるオキシトシンの存在で
す。

**

スウェーデンで1960年代に開始された「タクティールケア」（タクティールとは「触れる」ことを意味
するラテン語）という看護の手法が注目を集めています。これは、当時、未熟児のケアに当たっていた看
護師たちが、保育器の赤ちゃんに「触れる」ことで、生存率を上げられることに気付いたことに始まっ
ています。日本でも「手当て」ということが、重要な看護やケアの原点であると言われていました。その
後、スウェーデンでは、手を触れることによって、不安や怒り、イライラといった精神症状を緩和するこ
とがわかり、いまでは広く応用されているとのこと。ハグ（抱きしめられる）することで落ち着きを取
り戻すということもわたしたちの日常生活でも多々あります。

タクティールケアは、最近では、認知症の患者へのケアにも応用されています。認知症の患者に対して、手や足、背中を手でやさしく、やわらかく包み込むように、ゆっくりとなでることによって、患者の意識や体調に劇的な変化を見せることがあるということもわかってきました。

これらのことから私たちは何を学べるのでしょうか。

イエス様の権威を信じて祈ること・優しい言葉をかけること・握手やハグなどの接触を許される環境のなかで、イエス様の御名を唱えつつ、ケアできると良いですね。

そして、イエス様は、その地方の人たちの懇願を後ろにして、別の町に出かけることを伝えています。その際の状況は

4:42 朝になると、イエスは人里離れた所へ出て行かれた。群衆はイエスを捜し回ってそのそばまで来ると、自分たちから離れて行かないようにと、しきりに引き止めた。

4:43 しかし、イエスは言われた。「ほかの町にも神の国の福音を告げ知らせなければならない。わたしはそのために遣わされたのだ。」

4:44 そして、ユダヤの諸会堂に行き行って宣教された。

「神の国の福音」を伝えるという表現がありました。

パウロはローマの信徒への手紙の中にこう書きました。31-44 その説明によれば「神の国」とは聖霊の働き、神様ご自身の介入によってもたらされる「解放（義）・喜び・平和」が心にもたらされる、あるいは人々の関わりの中にもたらされることです。

つまり、心も身体も痛んでいる人たち、あるいは関係が壊れてしまっている人たちが、神の言葉の語りかけと神に触れられることにより解放と喜びと平和を経験することのために、イエス様は別の町々に出かけると語ったのです。その福音は、今、私たちのところにも届きました。

病んでいる友人のために祈る時、「神様、彼（彼女）を癒してください」と祈るばかりでなく、その人が「イエス様の言葉を心に受け止めることができますように。そしてイエス様が共にいて触れてくださっていることを感じられますように」と祈ることはとても大切なことだと思います。また、私たちが、そのことについて、何かできることがあるかどうかを考えることも大切です。私たちはキリストではありませんから、イエス様と同じ権威はないですけど、威圧的でない優しい言葉、やさしく握手すること、頭に手を置いて祈ること、などは状況に応じてとても有益な「奉仕」になるかもしれません。

今朝、イエス様はこの出来事と記録から、あなたになにを語っておられるでしょう。

心に「イエス様の姿」と「イエス様の力」、そして「その心」を感じ取ることができますように。

2022年1月9日

「MACF 礼拝映像」はこちらです。

https://youtu.be/yBxDsuZWg_0